

2023 年度東京成徳大学、東京成徳大学大学院入学式 学長告辞

再び巡りきた春の良き日、こうして新入生の皆さんをお迎えすることは、大きな喜びです。本学を代表して、心より歓迎するとともに、ひと言お祝いの言葉を申し上げます。

また、ご家族、関係者の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。

ご来賓の皆様にもご臨席を賜り、心よりお礼を申し上げます。

さて、皆さんは高校の3年間「新型コロナ禍」とともに過ごしたわけですから。この時期には日常生活も大きく揺さぶられ、様々な経験をしたことと思います。今ようやく「新型コロナ」もおさまり、新しい大学生活をスタートさせようとしています。

3年前の入学試験の面接でのことです。

「これまでの人生で最も印象に残ったことは何ですか」と受験生から逆に質問されました。「何か質問はありますかと聞いた時のことです。それは「ここ数十年の社会の変化のスピードかな。例えば情報通信システムの進展」。そのように答えたと 생각합니다。

実際、ここ数十年の情報通信システムの変化には目を見張るものがあります。第1世代(1980年)の携帯電話から始まり、第2世代のメール、第3世代の情報検索、第4世代の動画やゲームまで。10年ごとに情報環境は大きく進化し、私たちの生活は大きく変わりました。現在私たちは、スマホを片手に何気なく、街中や学内で、電話をし、メールを遣り取りしています。情報を検索し、動画やゲームを楽しんでいます。ただ、それは人類の歴史から見てごく最近のことで、「情報化社会」がもたらした日常なのです。

折しも、2020年、突然起こった「新型コロナパンデミック」のため、社会の様相は大きく変化しました。大学でも、通常授業はオンライン授業に切り替わり、社会全体がリモート(遠隔化)になりました。同時に、2020年から私たちの社会は「情報化社会」の次の段階、「AI(人工知能)の社会」へ足を踏み入れたといわれています。「Society5.0」(5.0社会) そこでは、スーパーコンピュータ、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)を鍵(キーワード)として様々な予測がなされています。自動運転、産業用ロボットによる無人工場、AIによる高度な医療診断や医療ロボットの活躍。そして情報検索を更に一歩進めて、あらゆる質問に対してAIが対話形式で回答してくれるサービスの出現等。

現在、様々な「近未来」が描かれ、また出現しつつあります。

こうした急速な変化に対してワクワクする人もいるでしょう。逆に不安を感じ心配する人もいるかもしれません。

10年前の2013年、オックスフォード大学のオズボーン教授は「雇用の未来」という論文のなかで、今後10~20年で現在の仕事の半分近くがコンピュータとロボットにとって代わるだろうと予測しました。オズボーン氏の予測が一挙に現実味を帯びてきたといえます。その時、気になるのはどのような仕事が残るかということでしょう。オズボーン氏は今後の社会で必要とされるスキルとして次の3つ要素をあげています。

- ①「創造性」:自分で積極的に考えること、工夫すること。
- ②「協調性」と「コミュニケーション能力」:相手の意図を理解したり、説得したり、配慮したりすること。
- ③「適応力」:(状況に応じて)「学ぶ能力」自分自身を変えていく能力。

これから始まる大学の4年間は、社会が与えてくれた貴重な贈り物(ギフト)です。社会へ出る準備の4年間です。4年間の使い方はすべて皆さん次第。ただ受け身的に過ごしてしまうには貴重すぎる4年間です。「現在、自分にとって何が一番大切か、何が重要か」主体的によく考えてください。そして、そうした「自分に対する問いかけ」を胸に、様々なことにチャレンジしてください。失敗があっても心配無用。大学とはまさにそうした(失敗)経験を積むことで、社会へ出るための準備をするところだからです。オズボーン氏の上げた3点「創造性・コミュニケーション・適応力」を意識的に養うには大学は最適の場所です。友達がいいます。先生がいいます。時間と情報があります。分からないことは尋ねる。よく聞く。よく考える。人間の本質は考えることにあります。

そして自分への信頼と多少の「楽観主義」を持って、将来に対する計画をしっかりと立てて下さい。皆さんの4年間で実りあるものとなるように、私たち教職員は、皆さんの成長を見守り、支え、ともに学ぶことを心から願っています。

ご入学おめでとう。私たちは皆さんを心から歓迎しています。

令和5年4月10日

東京成徳大学学長 吉田 富二雄